

押し葉

「古瀬義植物標本コレクション」

古瀬 義氏は戦前より日本各地を歩き、15万点以上の押し葉標本を製作し、日本最後のプラントハンター（植物採集家）と言われます。古瀬氏の押し葉標本は古瀬コレクションと呼ばれ、研究用標本として専門家から高い評価を得て、国内はもとよりイギリスのキュー植物園など海外の標本庫にも収められています。

生命の星・地球博物館では古瀬氏の標本を2万5千点収蔵しており、古瀬氏の足跡のほぼ全体をカバーし、もっとも充実した古瀬コレクションとなっています。当館には古瀬コレクションの他にも23万点以上の押し葉標本が収蔵され、日本の植物研究やレッドデータブックの作成などの重要な基礎資料として活用されています。

この企画展では古瀬コレクションを中心に、生命の星・地球博物館に収蔵されている押し葉標本コレクションを紹介します。



古瀬 義 ふるせみよし

1911年長野県飯田市生まれ。

県立飯田中学校卒業後は、共立女子薬学専門学校助手として、小泉秀雄氏のもとで標本の整理を行う。その後、外国航路の船員となって海外に渡り、イギリスのキュー植物園で標本について学ぶ。戦後は東京都のバス運転手として働きながら、日本各地を歩き、押し葉標本を製作する。

定年退職後は、北海道、小笠原、琉球など、精力的に植物調査を行い、さらに多数の標本を製作した。1996年逝去、享年84。

古瀬氏が発見した新種の植物

採集した標本にもとづいて新種として発表された植物には、アカイシリンドウ、キバナコウリンカ、ミカワチャルメルソウ、ミノブザクラなどがあります。また、コウシュンスゲ、ハウザンスゲなど、古瀬氏の標本によって日本新産となった植物も多数あります。



キバナコウリンカ



ミカワチャルメルソウ



コウシュンスゲ

日本列島押し葉紀行

北は北海道から南は波照間島や小笠原諸島まで、古瀬氏の足跡を追って、日本各地の植物を紹介します。



リシリンソウ



ハテルマキリ



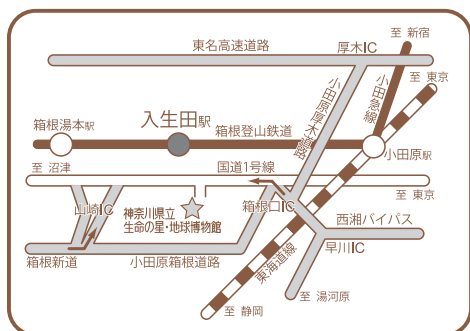
ワダンキ

生命の星・地球博物館植物標本コレクション

箱根在住の植物研究者として知られる澤田武太郎氏の植物標本、台湾や琉球のラン科植物を研究した正宗巖敬・福山伯明両氏の台湾産ラン科植物標本、「神奈川県植物誌」の証拠標本、元学芸員大場達之・高橋秀男両氏の標本など、当館所蔵の植物標本コレクションを紹介します。



台湾産ラン科植物標本
Dicerostylis nipponica Fukuy.



観覧料

下記の料金で常設展・企画展をご覧いただけます。
※()内は有料人員20人以上の団体料金です。
20歳以上(学生を除く) / 510円(400円)
20歳未満・学生 / 300円(200円)
高校生・65歳以上 / 100円(100円)
中学生以下 / 無料

開館時間 9:00～16:30(入館は16:00まで)

交通案内

電車：箱根登山鉄道(小田急線乗り入れ)
入生田駅下車徒歩3分
車：国道1号線「地球博物館前」
交差点(歩道橋に表示あり)入る

 **神奈川県立 生命の星・地球博物館**
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

〒250-0031 小田原市入生田499
電話：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846
<http://nh.kanagawa-museum.jp/index.html>